

第 43 回小山市地域公共交通会議 議事要旨

【開催の概要】

1. 日 時 令和 4 年 11 月 14 日（月） 9：00～10：00
2. 場 所 小山市役所 庁舎 3 階 大会議室 3 a b
3. 出席者 浅野（市長）、大山、生沼、福島、小矢島、鉢村、後藤、伊丹、浅野、椎名、武、上野、吉田委員代理（島田）、上野委員代理（福地）、田村、亀田、高山委員代理（藏持）、膝附（敬称略） 計 18 名
4. 議題（1）小山市地域公共交通計画（本計画案）について
 - ①これまでの取り組み概要について
 - ②小山市地域公共交通計画(案)について
 - ③ダイヤ改正(案)について（2）その他
 - ④タクシーアプリ「GO」について

【協議内容】

1. 開会

- ・本会議は議員 26 名中出席者 18 名となり過半数を超えたので、条項より会議が成立したことを報告する。

2. あいさつ（小山市地域公共交通会議会長）

※市長が挨拶

- ・小山市地域公共交通会議は、平成 19 年に成立し、地域の実情に即した輸送サービスの提供を目的として会議を行ってきた。
- ・毎年定例で 6 月と 1 月に会議を開催してきたが、令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のために、会議は書面開催となっていた。今回対面で集まってもらうのは約 2 年半ぶりとなる。
- ・通常、年度後半は 1 月に会議を開催するが、今回は計画策定の関係上 1 月では間に合わないため、臨時で 11 月開催となった。
- ・この 2 年半の間に小山市におけるおーバス関連の取り組みは様々な形で注目を浴び、高い評価を得ている。
- ・2020 年 10 月にはモバイル乗車券「スマホ de noroca」が「グッドデザイン賞」を受賞し、今年の 9 月には全国初のスマホアプリ LINE を活用したモバイル定期券や乗車券が評価され、「夏の Digi 田甲子園」で栃木県代表となり全国 8 位に入賞した。
- ・小山市において公共交通を充実させることは非常に大きな課題。
- ・おーバスは更に利便性を高めていく必要があるが、そのためにも今回みなさまに審議いただく小山市地域公共交通計画は非常に重要なものとなる。

3. 議題

(1) 小山市地域公共交通計画(案)について

- ・本会議は約 2 年半ぶりの対面開催となり、その間に委員の変更などもあったため、これまでの取り組みから説明する。

① これまでの取り組み概要について

- ・バス利用者とマイカー保有台数に関して、マイカー保有台数は増加する一方で、バス利用者は減少している。
- ・民間のバス会社が撤退後に、市民の足を確保するために小山市が運営主体となっておーバス運営が始まった。
- ・平成 19 年 4 月に小山市地域公共交通会議が設置。翌年の平成 20 年に市内民間バスが全線廃止され、本格的におーバス運行が開始する。
- ・おーバス路線の変遷として、当初は小山市郊外部まで循環路線バスのルートがあったが、利用者数は少なく、空のバスが走っていることも多かったという。輸送効率が悪く費用も膨大になるため、郊外部は徐々にデマンドバスへと変わっていった。
- ・路線バスは小山駅等を結節点としてハブ・アンド・スポークの考え方が主流となり、ルートの見直しを繰り返し行いながら、令和 3 年 10 月に改正した路線図のように変わっていった。
- ・おーバスの所管を生活安心課から都市計画課に移管し、バス交通網を都市交通の推進の観点から再編・実施するようになり、様々な取り組みを行ってきた。
- ・小山市地域公共交通会議が書面開催となって以降の取り組みは以下の通り。
 1. 広域連携路線である渡良瀬ラインの実証運行
 2. 全線共通定期券おーバス noroca 供用開始
 3. タブロイド紙「Bloom!」の発刊
→アンケートを行い、その結果を掲載することによって双方向性のコミュニケーションを実現。
 4. 新市民病院線の運行ルート変更・増便
 5. ハーヴェストウォーク線の運行開始
→最も利用者の多い路線となっている。
 6. 大谷中央線等のダイヤ改正
 7. バスロケーションシステムの導入や SNS での情報発信
 8. 関東自動車(株)の自主運行路線である小山駅東口循環線や小山駅東口・新市民病院循環線の noroca や回数券適用範囲として拡大
 9. おーラジの商業連携定期券販売開始
 10. タクシー割引サービスの社会実験を実施
→社会実験の取り組みが評価され、令和 3 年 8 月に「JCOMM ポスター賞」代表理事賞を受賞。
 11. 乗り残し解消のため、高岳線の便数を 30 便から約 2 倍の 57 便に増便
→おーバスの路線のなかで 2 番目に多い利用者数となった。
 12. 利便性の向上とキャッシュレス化の推進として「スマホ de noroca」での定期券・回数券の供用開始

- ・おーバス利用促進の取り組みが評価され、「グッドデザイン賞」や「JCOMM プロジェクト賞」を受賞。
- ・バス利用者促進の取り組みは環境の観点からも評価され、「EST 交通環境大賞」の優秀賞を受賞。
- ・おーバス定期券の利用者は、全線共通定期券 noroca 販売開始から増加傾向に転じ、モバイル定期券販売開始以降は更に増え、noroca 販売開始前の約 5 倍となった。
- ・小山市地域公共交通計画を今年度中に策定予定。
- ・おーバスの年間利用者数についてはコロナ禍においても増加傾向を保っており、平成 20 年 36.7 万人比較すると、令和 3 年は約 2.3 倍になっている。今年度も増加し続けており、令和 4 年度の利用者数は 100 万人に迫る勢いである。
- ・おーバスの増便や原油の高騰、コロナ禍による外出自粛などの影響により、収支率はコロナ禍前の状態には回復できていない。
- ・運行補助金も増加傾向にあるが、コロナ禍による影響が落ち着き始めたことや、今後のダイヤ改正に伴う利用者増加が見込めれば、改善していくと考える。

② 小山市地域公共交通計画(案)について

- ・小山市地域公共交通計画(案)の本文は、事前にいただいた意見をもとに修正しているので、各自で確認をしてほしい。
- ・この計画は小山市地域公共交通総合連携計画をブラッシュアップしたもの。
- ・小山市地域公共交通計画は、「小山市総合都市交通計画」が上位計画。
- ・本会議で計画内容を了承していただければ、今後パブリックコメントを実施し、2 月頃の計画策定を目指している。
- ・基本理念は、令和元年のおーバス利用促進プロジェクトで掲げたブランドコアメッセージをもとに、「小山に生きる。おーバスが活きる。～マイカー無しでも便利な移動サービスと豊かな生活を小山市民、小山への来訪者に提供する～」と定め、併せて基本方針を 3 つ定めている。

※基本方針

1. 公共交通機関の土台となるおーバスを増便等のダイヤ改正を中心に整備する。
 2. おーバスの補完と利便性向上のため、複数の交通手段との連携を図る。
 3. 商業施設等との連携により、利用促進や外出支援に繋げる。
- ・基本方針にもとづいて、3 つの基本目標、9 つの視点と目指す暮らしの姿を定めた。

※3 つの基本目標

1. おーバス（路線バス）を便利なバスへ
2. タクシー、デマンドバス等との連携により、移動サービスの充実へ
3. 生活サービスとの連携により、まちや地域全体の活性化へ

※9 つの視点

1. 都市軸の形成、中心市街地活性化、コンパクト・プラス・ネットワークの実現
 2. 脱炭素・環境負荷低減
 3. 交通事故削減
 4. 渋滞緩和
 5. 産業振興
 6. 余暇
 7. 観光振興
 8. 健康
 9. 暮らし・生活支援
- ・公共交通の発展は、まちづくりや環境、生活、道路など様々な分野の発展に繋がると

考えている。

- ・政策の領域区分は、「都市交通領域（主に市街化区域）」と「生活支援領域（主に市街化調整区域）」の2つに設定する。
- ・「都市交通領域」では、路線バスを中心として利便性の高い公共交通を提供することによって、マイカーからの転換を図る。
→サービス水準としては、おーバスの運行を1時間におおよそ1本以上、ピーク時には1時間に2本を目指す。そのための増便やダイヤ改正を計画している路線がある。
- ・2025年までの目標として、基本目標と発展目標を定め、その後5年ごとに評価や見直しを行う予定。
- ・小山市総合都市交通計画では、2040年までの目標は、おーバスの年間利用者数を210万人と併せて自動車分担率9ポイント削減としている。年間バス利用者数の基本目標210万人では自動車分担率9ポイント削減は達成困難である。
→最低限の目標としておーバスの年間利用者数を210万人、自動車分担率1ポイント削減を設定し、発展目標としておーバスの年間利用者数を600万人、自動車分担率9ポイント削減を位置付けた。発展目標は、他都市のバス年間利用者数も参考に設定した。
- ・「生活支援領域」では、移動制約者のフォローに特化するものとして、主に生活支援という考えで現在のデマンドバスやタクシー割引などの組み合わせによる効率的な設計を行い、通院や買い物、交流における保障水準を確保するものとする。
- ・バス運営費用は市の運行補助金や運賃などの利用者負担のほかに、交付税等から成り立っている。
→令和2年度の事業総額は3.3億円だが、市の実際の負担額は約1億5千万円。
- ・本計画の計画運用では5年に一度見直しを行うが、おーバス事業計画はその時の課題やバス利用状況の分析に併せて毎年更新していく。

■意見交換

- 委員 中期目標を定めているが、それらの達成状況などを少しずつ検証していく必要があるのではないか。検証はどのような手法で行うのか。
- 事務局 公共交通計画(案)のP71～72を参照していただきたい。表に示している通り、様々な指標により評価・見直しを行っていく。
- 委員 様々な指標目標と手法の記載があるが、数値目標が達成できなかった、あるいは達成できた理由を説明する機会が必要なのではないか。目標数値だけでなく、手法についても教えてほしい。
- 事務局 今後3年間についてはバス増便計画などがあり、それに伴って利用者が増加していくことの検証を進めていく。
- 委員 この会議は年2回だが、適宜報告をいただきながら、委員のみなさんにも意見を求めていくと考えて良いか。
- 事務局 おっしゃる通り。
1月に事業の効果検証と評価をしていただき、それに基づいて6月の新たな計画に反映させていく。このローリングをエンドレスに行っていく。

委員 計画は作って終わりになってしまうことがあるため、適宜講評して議論していく場を設けてほしい。

委員 小山市地域公共交通計画(案)概要版の2025年までの目標の中に、定期券保有者のうち、一般と学生の割合はどのようなものか。また、学生の内訳はどのようなになっているのか。

事務局 主に定期券を利用する学生は小山高専生や小山西高校の学生となっている。細かい内訳については把握していない。現状で高校生の利用が少ない路線もあるので、増便などの対策を行い、学生の利用者数を増やしていきたい。

③ ダイヤ改正(案)について

- ・令和5年度～7年度のダイヤ改正案について説明を行う。
- ・ダイヤ改正案の具体的な審議は、次回の委員会で行う。
- ・おーバスの収支率は栃木県内で2番目に高く、輸送人員1人当たりの公費負担額は県内で最も低いことから、他市と比較して効率の良い運行ができていると考える。(「令和3年度版とちぎの公共交通」より)
- ・その一方で運行間隔はほとんどの路線で1時間に1本以上と長く、改善要望を受けている。
→特に要望が多く利用者増加が見込める路線から増便を行う。
- ・目標は、運行本数をピーク時には毎時間2本以上と定めている。
- ・年度毎のダイヤ改正路線は以下の通り。
 1. 令和5年度 小山駅東口循環線、小山駅東口・新市民病院循環線
渡良瀬ライン、間々田駅東西線
 2. 令和6年度 羽川線、間々田線、土塔平成通り線、大谷中央線
 3. 令和7年度 城東中久喜線、思川駅線、道の駅線
- ・今後はおーバスの小山市役所への乗り入れが始まる。令和7年度末には約150便が乗り入れることになる予定だが、市役所の乗り入れに関しては、各路線で調整が必要となる。

■意見交換

委員 ダイヤ改正案における思川駅線と道の駅線について、現行の運行間隔が120分は長すぎるのではないか。登下校時には間隔をあけても60分前後でないと、バスを利用したくても利用できない状況なのではないか。

事務局 思川駅線と道の駅線については、1台の車両を2路線で運用している。道の駅線については日中の利用が多いことから、その時間帯の本数を多くしている。思川線は、小山西高校の学生やさくらのクリニックの利用者などが朝と夕方に多いことから、現在でも朝夕の運行間隔は60分となっている。今回のダイヤ改正では各路線に車両を1台ずつ配置し、そこに振り分ける運用体系を考えている。

事務局 現在でも朝夕の時間帯は60分の運行間隔となっており、多くの学生に利用していただいている。令和7年度には更に便利に利用できるようにする計画を考

えている。

委員 過去に女子高生が登下校中に被害に遭っていると聞く。周囲の自治会と協力して対策を取っているが、バス通学ができるようになるべく運行間隔を短くしてほしい。

委員 令和6年度に間々田線をダイヤ改定予定とのことだが、間々田小学生の登下校利用に向けての対策と考えて良いか。間々田小学校以外にも、下生井小学校など、美田地区内の登下校班が成立していない場所への対策も行ってほしい。

事務局 今後検討する。

会長 小山市地域公共交通計画(案)と策定に向けたスケジュールに関して、みなさんの了承がいただければ、パブリックコメント実施ということになる。了解を賜ったと考えても良いか。

役員 (全員異議なし)

会長 本会議では議題について了承をいただいたということで、今後パブリックコメントを行っていく。

(2) その他

④ タクシーアプリ「GO」について

- ・スマートフォンからタクシーを手配ができるアプリを、友井タクシーが8月から導入している。
- ・非常に便利なアプリで、国土交通省や青森県などでも導入の支援している実績もあるため、小山市でも導入支援を検討する余地があるのではないかと考えている。
- ・小山市ではLINEを活用した定期券アプリを開発しており、現在はおーバスのみが対象となっているが、今後はタクシーアプリ等との連携を考えている。
- ・「GO」の特徴として、待ち時間や料金が分かる、「GOPay」を利用することによって降車時の支払いが省ける、などが挙げられる。
- ・小山市内でのアプリ利用実績としては、9月は1500件の注文数のうち、600件が実際に配車されている。10月は国体での車両利用があったため、利用数は減少した。
- ・市外からの出張や買い物等の私的利用も考えられる。
- ・小山市では免許自主返納者におーバス無料乗車券を配布しているが、バスでは行きにくい目的地があることや時間的な制約等によりタクシーを利用される方も多くいる。今回紹介したようなタクシーアプリの連携、利用促進をすることで、バスもタクシーも便利に利用できる公共交通体系を構築していきたい。

■意見交換

委員 栃木県内では、タクシーアプリ「GO」の運用が令和4年8月24日から始まっている。今は宇都宮市や小山市、日光市で活用されており、今月からは栃木市でも利用開始されるとのこと。

非常に便利なアプリで、宇都宮市では多くの注文が入っている。日本交通によると、東京都内でのタクシー予約の90%がアプリからの予約になっているとのこと。また、宇都宮市においては1社に確認したところ、1000件は電話で

400 件がアプリ配車と、非常に多くの方に利用されている
栃木県タクシー協会でもこのアプリを推進し、将来的には事前確定運賃や相乗りタクシーを導入したいと考えている。

4. 閉会

- ・次回は1月27日（金）15：30～16：30に開催予定

以上